

大学生のスポーツ活動に関する研究 — 高等学校におけるスポーツ経験との関係 —

藤原 誠 堺 賢治¹⁾

A study on the sport activities of university student
— the relationship with experience of sports in high school —

Makoto Fujiwara and Kenji Sakai¹⁾

Key words : university student , sport activities , experience of sports

(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education,
Ehime University, 7, 21-30, March , 2010)

キーワード: 大学生, スポーツ活動, スポーツ経験

I 結 言

我が国のスポーツ政策の基本となる「スポーツ振興基本計画」が策定されて10年を迎えようとしている。最終年度を目前にして、標榜された生涯スポーツ社会の実現について、その達成度が問われることになる。

国民のスポーツ実施率は徐々に上昇しているが、この上昇は中高年を中心とした健康を志向する運動・スポーツの実施によるところが大きい。子どもの状況に目を転じると、体力低下は著しく進行し大きな社会問題となっている。最新のデータでは子どもの体力低下傾向は底を打ちやや上昇に転じているが、子どもの体力向上を図るためには継続的に子どもの遊びやスポーツを取り巻く環境を整えていく必要がある。さらに生涯スポーツの観点からすると、青年期、成人期にある人々の継続的なスポーツ実施を実現するための方策も必要となる。

著者はこれまで生涯スポーツの観点から小学生や中学生のスポーツ実施について、継続・離脱をめぐる状況分析等を行ってきた。小学校から中学校への進学を契機としたスポーツ実施の変容、さらに、中学校の運動部の活動や学校生活の実態等、中学校期のスポーツ

実施をめぐる状況についても分析を進めてきた。

このような小学校期、中学校期に続く高等学校期や大学期は、スポーツに対する性向や生涯スポーツに対する態度が確立される時期であり、その後に続く成人期のスポーツ実施を左右する、重要な鍵を握る時期といえよう。特に大学期は社会人となり自活する前段階の時期であり、その後の生活にとって重要な意味をもつ。大学生のスポーツに関しては、高等学校までの厳しい運動部での活動によりバーンアウトを起こして大学では運動部に加入しない、あるいはスポーツをするにしても同好会などの比較的緩やかな環境の中で行うなどの傾向もみられる。生涯にわたるスポーツの実施という観点からすると、高等学校から大学への進学に伴い、定期的なスポーツの実施者が減少することは大きな問題となる。

そこで本研究では、大学生のスポーツ実施状況を明らかにするとともに、大学でのスポーツ実施と高等学校におけるスポーツ経験との関係について検討することを目的とした。

II 方 法

1. 調査対象

愛媛大学において2007年度後学期に「スポーツⅠ」

1) 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,
〒790-8577, Japan

の授業を受講した1回生。

2. 調査方法

質問紙による配票調査。配布数857, 有効回収数839, 有効回収率97.9%。

3. 調査時期

2007年10月1日～10月5日。

4. 分析の視点

表1に示すように、大学での運動部、運動系サークルへの加入状況は性別により異なるため、大学でのスポーツ状況、および高等学校でのスポーツ状況、さらにその両者の関係を検討するにあたっては、男子、女子に分けて分析を行うこととした。大学でのスポーツ状況については、運動部に加入している者、運動系サークルに加入している者、そのいずれにも加入していない者の三者に分類して分析を進める。

表1 運動部・運動系サークル加入 (%)

項目	男子	女子	合計
運動部	30.3	15.5	23.2
サークル	29.2	28.3	28.7
非加入	40.5	56.3	48.0

p<0.001
(χ^2 検定、以下同じ。)

Ⅲ 結果と考察

1. 高校時の生活・スポーツ意識

(1) 生活の力点

表2は高校の3年間の生活において、どのような活動に最も力を注いだか、その状況について示している。男子、女子のいずれにおいても、大学で運動部や運動系サークルに加入している者は高校時にスポーツに力を注いだという者が多い。これに対して大学で運動部や運動系サークルに加入していない者は遊びや趣味の活動に力を注いだという者が多い。この結果は後述する高校時のスポーツクラブへの加入状況、すなわち、運動部や運動系サークルへの加入者の方が高校時にスポーツクラブにかにゅうしていたことと関連しているものと思われる。

表2 生活の力点

男子		女子			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
遊びや趣味	30.8	31.3	47.2	37.6	
スポーツ	48.9	46.9	20.8	36.9	
勉強	18.8	18.8	25.8	21.6	
その他	1.5	3.1	6.2	3.9	

p<0.001

女子 (%)

項目	運動部	サークル	非加入	合計
勉強	29.0	34.5	37.3	35.3
遊びや趣味	25.8	29.2	40.0	34.8
スポーツ	37.1	26.5	8.4	18.0
その他	8.1	9.7	14.2	12.0

p<0.001

(2) スポーツ意識

表3は運動やスポーツをすることに対する好悪について示している。運動部や運動系サークルへの加入者は高校時に運動やスポーツをすることが好きだったという者が多い。特に男子においては運動部、運動系サークル加入者の94%から98%程度の者が運動やスポーツをすることが好き、または、どちらかといえば好きだったと回答している。

また、運動部、運動系サークルへの非加入者においても運動やスポーツをすることが好き、または、どちらかといえば好きと答えた者は男子で80.4%、女子で65.8%となっており、高校時において運動やスポーツの実施は比較的好意的に受け取られていたことがうかがえる。

表3 運動・スポーツ実施の好悪

男子		女子			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
好き	65.4	64.8	36.0	53.3	
どちらかといえば好き	28.6	32.8	44.4	36.2	
どちらかといえば嫌い	5.3	1.6	14.0	7.7	
嫌い	0.8	0.8	5.6	2.7	

p<0.001

女子 (%)

項目	運動部	サークル	非加入	合計
好き	51.6	44.2	24.9	34.5
どちらかといえば好き	37.1	45.1	40.9	41.5
どちらかといえば嫌い	9.7	9.7	27.1	19.5
嫌い	1.6	0.9	7.1	4.5

p<0.001

表4は高校時にスポーツをするうえで何が大切だと思っていたか、当時のスポーツに対する意識について示している。男子、女子ともに、楽しくやれることが一番だとする者が最も多く、楽しさを志向する傾向が強いことがわかる。

男子では運動部、運動系サークルへの加入者は非加入者に比べて、やるからには勝つことが大事だとする者が多く、勝利を志向する傾向にあったことを示している。

女子では運動部の加入者のみ勝利志向を示し、運動系サークルへの加入者は非加入者と同様に楽しさを志向する者が多い。

以上のことから、大学で運動部に加入する者は高校時に勝利志向の傾向を示す者が多く、運動系サークルに加入する者は、男子では楽しさを志向する者に加え

て勝利を志向する者、女子では勝利を志向する者は極めて少なく、楽しさを志向する者が多いことがわかる。

表4 スポーツ意識

男子 (%)				
項目	運動部	サークル	非加入	合計
楽しくやれることが一番だ	43.6	54.7	62.4	54.4
やるからには勝つことが大事	33.8	30.5	12.4	24.1
一生懸命やればそれでよい	15.0	10.9	12.9	13.0
あまり考えたことがなかった	7.5	3.9	12.4	8.4

p<0.001

女子 (%)				
項目	運動部	サークル	非加入	合計
楽しくやれることが一番だ	45.2	66.4	67.1	63.5
一生懸命やればそれでよい	19.4	19.5	16.4	17.8
やるからには勝つことが大事	27.4	6.2	7.1	10.0
あまり考えたことがなかった	8.1	8.0	9.3	8.8

p<0.001

2. 高校時のスポーツクラブ加入・活動状況

(1) スポーツクラブへの加入

高校時の運動部や地域のスポーツクラブへの加入状況を示したものが表5である。男子では大学で運動部や運動系サークルに加入している者のうち、高校時にスポーツクラブに加入していた者は70%から80%を占めており、高校から大学へのスポーツ実施の連続性がうかがえる。女子においても、大学で運動部に加入している者は高校時にスポーツクラブに加入していた者が多くなっている。

このように、運動部や運動系サークルに加入している者は非加入者に比べて高校時にスポーツクラブに加入していた者が多く、先述したように、高校時に最も力を注いだ活動としてスポーツを挙げる者が多くなっているものと思われる。

表5 スポーツクラブ加入

男子 (%)				
項目	運動部	サークル	非加入	合計
加入していた	79.7	73.4	43.8	63.3
加入していたが辞めた	9.8	13.3	10.7	11.2
加入していなかった	10.5	13.3	45.5	25.5

p<0.001

女子 (%)				
項目	運動部	サークル	非加入	合計
加入していた	54.8	38.9	20.0	30.8
加入していたが辞めた	4.8	11.5	7.1	8.0
加入していなかった	40.3	49.6	72.9	61.3

p<0.001

また、女子において特徴的なのは、大学での運動系サークル加入者では高校時にスポーツクラブに加入していなかった者が約半数を占め、さらに運動部加入者においても高校時にスポーツクラブに加入していなかつ

た者が40%を占めていることである。このように女子では大学でのスポーツ実施において、高校からのスポーツ継続者に加えて、大学に入ってから新たにスポーツを始める者が比較的多いことがわかる。

(2) スポーツクラブの活動状況

以下では、高校時にスポーツクラブに加入した経験がある者に対して尋ねた、高校時のスポーツクラブの活動状況について検討する。

表6はスポーツクラブに加入したきっかけについて示している。男子では運動部に加入している者において、自分がやりたくてスポーツクラブに加入したという者が運動系サークル加入者や非加入者に比べてやや多くなっている。これに対して運動系サークルへの加入者では運動部への加入者に比べて友達にさそわれて加入したという者が多くなっている。このように大学において運動部に加入する者は、高校時からスポーツクラブの加入に対して主体的であったことがうかがえる。

女子においては、高校時のスポーツクラブ加入のきっかけと大学での運動部、運動系サークルへの加入、非加入との間に関連は認められなかった。

表6 加入のきっかけ

男子 (%)				
項目	運動部	サークル	非加入	合計
自分がやりたかった	74.8	70.9	70.1	72.1
友達にさそわれた	13.4	22.7	18.6	18.1
親・先生・先輩にすすめられた	7.6	3.6	1.0	4.3
その他	4.2	2.7	10.3	5.5

p<0.05

女子 (%)				
項目	運動部	サークル	非加入	合計
自分がやりたかった	73.0	71.9	70.0	71.4
友達にさそわれた	16.2	19.3	16.7	17.5
親・先生・先輩にすすめられた	8.1	7.0	5.0	6.5
その他	2.7	1.8	8.3	4.5

n. s.

表7は高校時のスポーツクラブの一週間あたりの活動日数を示している。男子、女子のいずれにおいても一週間に7日、つまり毎日活動を行っていたという者が最も多くなっている。週5日以上を含めると90%程度となり、高校時の運動部を中心としたスポーツクラブの活動頻度が極めて高いことがわかる。

高校時のスポーツクラブの活動日数と大学での運動部、運動系サークルへの加入との関連については、男子、女子ともに高校時に毎日スポーツクラブで活動していた者は運動部に比べて運動系サークルでやや多くなっている。大学でもスポーツを行いたいのが高校時の

ように毎日活動するのは避けたいという者が運動系サークルに加入している可能性があるようにも思えるが、明確な関連は認められなかった。

表7 活動日数

男子		(%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
1～2日	2.5	1.8	1.0	1.8	
3～4日	10.1	8.1	4.1	7.6	
5～6日	42.9	36.9	44.3	41.3	
7日	44.5	53.2	50.5	49.2	

n. s.

女子		(%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
1～2日	8.1	5.3	6.7	6.5	
3～4日	2.7	7.0	5.0	5.2	
5～6日	35.1	28.1	35.0	32.5	
7日	54.1	59.6	53.3	55.8	

n. s.

表8は高校時のスポーツクラブの活動への参加頻度を示している。男子、女子のいずれにおいても、いつも参加していたという者が最も多く、特に女子では90%近くの者がいつも参加していたと回答しており、熱心に活動に取り組んでいたことがわかる。

大学での運動部、運動系サークルへの加入との関係を見ると、男子、女子のいずれにおいても、運動部への加入者は運動系サークルへの加入者に比べて高校時のスポーツクラブの活動にいつも参加していたとする者が多くなっている。特に女子の運動部加入者では95%の者がいつも参加していたとしており、明確な関連は認められなかったが、大学で運動部に加入する者は高校時にスポーツクラブの活動に熱心に取り組んでいた傾向にあることがうかがえる。

表8 活動への参加頻度

男子		(%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
いつも参加していた	82.4	69.4	73.2	75.2	
たまに休んでいた	13.4	27.0	22.7	20.8	
半々くらい・参加しないことが多かった	4.2	3.6	4.1	4.0	

n. s.

女子		(%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
いつも参加していた	94.6	80.7	90.0	87.7	
たまに休んでいた	5.4	17.5	10.0	11.7	
半々くらい・参加しないことが多かった	0.0	1.8	0.0	0.6	

n. s.

表9は高校時、加入していたスポーツクラブにおいて、同学年の部員の中でどの程度の技術レベルであったのかを尋ねた結果を示している。

男子では、上手い方だったとする者は大学での運動

部加入者に多く、次いで運動系サークル加入者、非加入者という順になっている。どちらかといえば上手い方とする者を加えると、運動部加入者では71.4%となり、運動系サークル加入者の54.0%、非加入者の48.4%を大きく上回っている。大学で運動部に加入する者は高校時のスポーツクラブで技術レベルが高い傾向にあったことを示している。

女子においても同様な傾向は見受けられるが、高校時の技術レベルと大学での運動部、運動系サークルへの加入、非加入の間には明確な関連は認められなかった。

表9 同学年部員の中での技術レベル

男子		(%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
上手い方	22.7	17.1	10.3	17.1	
どちらかといえば上手い方	48.7	36.9	38.1	41.6	
どちらかといえば下手な方	20.2	33.3	35.1	29.1	
下手な方	8.4	12.6	16.5	12.2	

p<0.05

女子		(%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
上手い方	21.6	10.7	8.3	12.4	
どちらかといえば上手い方	48.6	41.1	41.7	43.1	
どちらかといえば下手な方	24.3	41.1	31.7	33.3	
下手な方	5.4	7.1	18.3	11.1	

n. s.

表10は高校時にスポーツクラブに加入してよかったと思ったことについてまとめたものである。

男子、女子ともに友達ができたとよかったこととして挙げる者が多い。特に大学での運動系サークル加入者においてこの傾向は顕著である。このように高校時のスポーツクラブの活動は人間関係を広め、深めるという機能をもっていることがうかがえる。

これに加えて特徴的なのは、運動部加入者において精神的に成長したことや大会や試合で勝てたことを挙げる者が多いこと、さらに、運動系サークル加入者において、有意義な時間が過ごせたことを挙げる者が多いことなどである。非加入者では男子で体力がついたこと、女子では根性や忍耐力が養われたことを挙げる者が多くなっている。

表10 加入してよかったこと

男子		M. A. (%)			
項目	運動部	サークル	非加入	合計	
友達ができ	37.8	55.9	46.4	46.5	
体力がついた	34.5	33.3	43.3	36.7	
根性や忍耐力が養われた	26.1	22.5	24.7	24.5	
有意義な時間が過ごせた	21.0	32.4	17.5	23.9	
精神的に成長した	29.4	22.5	16.5	23.2	
礼儀正しくなった	15.1	6.3	10.3	10.7	
大会や試合で勝てた	14.3	7.2	4.1	8.9	
ストレスの解消になった	7.6	6.3	11.3	8.3	
特にない	2.5	0.9	4.1	2.4	

女子 項目	M. A. (%)			
	運動部	サークル	非加入	合計
友達ができた	54.1	57.9	48.3	53.2
精神的に成長した	37.8	29.8	33.3	33.1
根性や忍耐力が養われた	29.7	26.3	38.3	31.8
体力がついた	16.2	28.1	20.0	22.1
有意義な時間が過ごせた	13.5	28.1	15.0	19.5
礼儀正しくなった	18.9	5.3	13.3	11.7
ストレスの解消になった	13.5	8.8	8.3	9.7
大会や試合で勝てた	10.8	1.8	5.0	5.2
特にない	0.0	3.5	3.3	2.6

高校時にスポーツクラブに加入してよくなかったと思ったことについてまとめたものが表11である。

全体としては、練習や試合で疲れることや勉強する時間がなくなることを挙げる者が多い。大学での運動部、運動系サークルへの加入者、非加入者を比較すると、男子では非加入者において練習や試合で疲れることや勉強する時間がなくなることを挙げる者が多くなっている。このような活動による疲労や時間的制約感が大学で非加入となった背景にあるように思われる。

女子では運動部への加入者において、よくなかったと思ったことは特にないと回答者が多く、運動系サークル加入者や非加入者に比べて、スポーツクラブの活動を肯定的に捉えていた者が多いことがわかる。

男子、女子に共通していることとして、非加入者ではストレスがたまることを挙げている者が多い状況にある。このような経験も大学での運動部、運動系サークルへの非加入に影響しているものと思われる。

表11 加入してよくなかったこと

男子 項目	M. A. (%)			
	運動部	サークル	非加入	合計
練習や試合で疲れる	32.8	34.2	40.2	35.5
勉強する時間がなくなる	18.5	26.1	33.0	25.4
友達と遊べない	24.4	18.0	9.3	17.7
クラブ内の人間関係で苦労する	16.8	11.7	19.6	15.9
よくケガをする	20.2	11.7	12.4	15.0
ストレスがたまる	11.8	11.7	17.5	13.5
学校の成績が下がる	8.4	9.9	8.2	8.9
家族と過ごす時間がなくなる	0.0	2.7	1.0	1.2
特にない	18.5	18.9	13.4	17.1

女子 項目	M. A. (%)			
	運動部	サークル	非加入	合計
勉強する時間がなくなる	32.4	33.3	36.7	34.4
練習や試合で疲れる	24.3	36.8	26.7	29.9
クラブ内の人間関係で苦労する	29.7	24.6	31.7	28.6
よくケガをする	21.6	21.1	8.3	16.2
ストレスがたまる	8.1	10.5	25.0	15.6
友達と遊べない	10.8	15.8	16.7	14.9
家族と過ごす時間がなくなる	5.4	8.8	3.3	5.8
学校の成績が下がる	5.4	1.8	6.7	4.5
特にない	16.2	7.0	6.7	9.1

表12は高校時のスポーツクラブ活動参加の目標についてまとめたものである。男子ではいろいろな技術を身につけることや大会や試合で勝つことを目標としていた者が多くなっている。女子では大会や試合で勝つことを目標としていた者が多い。このように高校の運動部を中心とするスポーツクラブでは、技術を身につけ、大会や試合で勝つことを目標として活動が行われることが多く、所属するメンバーも同様な目標をもって活動しているものと思われる。

大学での運動部加入者ではこのような大会や試合で勝つことを目標としていた者が多く、これに対して運動系サークル加入者ではスポーツを楽しむことを目標としていた者が多くなっている。この傾向は女子の非加入者においてもみられる。このような高校時の目標の違いが、大学での運動部、運動系サークルの選択に反映しているように思われる。

表12 参加の目標

男子 項目	M. A. (%)			
	運動部	サークル	非加入	合計
いろいろな技術を身につける	36.1	39.6	36.1	37.3
大会や試合で勝つ	39.5	35.1	36.1	37.0
スポーツを楽しむ	25.2	30.6	25.8	27.2
みんなと仲良く活動する	18.5	24.3	25.8	22.6
健康や体力をつける	19.2	18.0	18.6	18.7
選手(レギュラー)になる	16.8	18.0	17.5	17.4
精神を鍛える	18.5	13.5	13.4	15.3
礼儀やマナーを身につける	4.2	4.5	4.1	4.3

女子 項目	M. A. (%)			
	運動部	サークル	非加入	合計
大会や試合で勝つ	48.6	40.4	36.7	40.9
みんなと仲良く活動する	35.1	35.1	28.3	32.5
いろいろな技術を身につける	29.7	21.1	25.0	24.7
スポーツを楽しむ	10.8	28.1	30.0	24.7
健康や体力をつける	18.9	24.6	21.7	22.1
精神を鍛える	24.3	17.5	21.7	20.8
選手(レギュラー)になる	10.8	14.0	13.3	13.0
礼儀やマナーを身につける	8.1	7.0	3.3	5.8

(3) スポーツクラブの満足度

表13は高校時のスポーツクラブに対する満足度を示している。満足している者とどちらかといえば満足している者を合わせると男子で76.5%、女子で86.1%となる。スポーツクラブ加入者の80%程度の者は満足している状況となっている。

男子の状況を見ると、運動部加入者および運動系サークル加入者では非加入者に比べて若干、満足している者が多くなっている。運動系サークル加入者ではどちらかといえば満足しているという者が他の二群より多く、全体として満足度が高い傾向を示している。こ

の満足度の高さが大学で運動系サークルに加入してスポーツを続ける要因となっているものと思われる。

女子においても男子と同様に、満足している者とどちらかといえば満足している者を合わせた満足者は非加入者に比べて運動部加入者や運動系サークル加入者の方がやや多くなっており、大学でのスポーツの継続実施に影響を与えている可能性がうかがわれる。しかしながら、高校時のスポーツクラブの満足度と大学での運動部加入、運動系サークル加入、非加入の状況との間に明確な関連は認められなかった。

表13 スポーツクラブの満足度

項目	運動部	サークル	非加入	合計
満足している	46.6	45.5	41.1	44.6
どちらかといえば満足している	28.0	38.2	29.5	31.9
どちらかといえば不満である	18.6	12.7	17.9	16.4
不満である	6.8	3.6	11.6	7.1

n. s.

項目	運動部	サークル	非加入	合計
満足している	61.1	55.4	56.7	57.2
どちらかといえば満足している	27.8	32.1	26.7	28.9
どちらかといえば不満である	5.6	10.7	8.3	8.6
不満である	5.6	1.8	8.3	5.3

n. s.

3. 大学でのスポーツ活動・学生生活

(1) 運動部、運動系サークルへの加入

表1において大学での運動部、運動系サークルへの加入状況を性別ごとに示したが、ここでは運動部加入者、運動系サークル加入者、非加入者について、その性別構成を表14に示した。

運動部への加入者では70%程度が男子、30%程度が女子となっている。運動部に加入してスポーツを実施している者は男子が多い。これに対して非加入者では女子が多く、女子の方がスポーツ実施に対して消極的であることがうかがえる。

表14 運動部、運動系サークルへの加入 (%)

項目	運動部	サークル	非加入	合計
男子	68.2	53.1	44.2	52.3
女子	31.8	46.9	55.8	47.7

p<0.001

(2) 運動部、運動系サークルの活動

以下では運動部、運動系サークルの活動状況について検討する。

表15は運動部、運動系サークルの一週間の活動日数を示している。男子、女子のいずれにおいても、運動部加入者では一週間に3日から4日が多く、運動系サークル加入者では1日から2日が多い。特に男子の運動部加入者では5日以上の者が33.3%を占めており、運動系サークル加入者に比べて著しく多い。

活動日数については明らかに運動部の方が運動系サークルより多くなっている。

表15 活動日数

項目	運動部	サークル	合計
1日	3.0	39.2	20.6
2日	16.7	47.2	31.5
3~4日	47.0	12.0	30.0
5日以上	33.3	1.6	17.9

p<0.001

項目	運動部	サークル	合計
1日	6.6	43.5	30.2
2日	9.8	47.2	33.7
3~4日	63.9	8.3	28.4
5日以上	19.7	0.9	7.7

p<0.001

表16は運動部および運動系サークルの平日の活動時間を示している。男子、女子ともに運動部、運動系サークルのいずれにおいても、2時間以上3時間未満の者が最も多くなっている。3時間以上の者は男子、女子ともに運動系サークル加入者に比べて運動部加入者の方が多くなっている。平日の活動時間については運動部の方が運動系サークルより長くなっている。

また、運動部では平日に活動がないという者は極めて少ないが、運動系サークルでは20%程度の者が平日には活動がないとしており、運動系サークルでは活動が休日に限定されているところも少なくないことがわかる。

表16 活動時間 (平日)

項目	運動部	サークル	合計
2時間未満	11.3	14.2	12.7
2時間以上3時間未満	50.4	40.2	45.4
3時間以上4時間未満	27.1	17.3	22.3
4時間以上	8.3	9.4	8.8
活動がない	3.0	18.9	10.8

p<0.001

項目	運動部	サークル	合計
2時間未満	13.1	20.9	18.1
2時間以上3時間未満	49.2	30.9	37.4
3時間以上4時間未満	24.6	20.9	22.2
4時間以上	8.2	6.4	7.0
活動がない	4.9	20.9	15.2

p<0.05

次に休日の活動時間を示すと表17のようになる。平

日と同様に3時間以上活動している者は運動系サークル加入者に比べて運動部加入者の方が多い。男子の運動部加入者で3時間以上の者は55.6%，運動系サークル加入者では43.7%，女子の運動部加入者で3時間以上の者は57.4%，運動系サークル加入者では45.0%となっており，男子，女子ともに同様の傾向を示している。

また，休日に活動がない者は，男子，女子のいずれにおいても運動系サークル加入者の方が多くなっている。

以上のことから運動部と運動系サークルの活動状況を比較すると，一週間の活動日数は運動部の方が多く，活動時間も運動部の方が長い，そして運動部は平日，休日を問わず活動しているが，運動系サークルでは活動が平日だけ，あるいは休日だけというように限定的な活動形態をとっているところが運動部に比べて多いことが明らかとなった。

表17 活動時間 (休日)

男子 (%)			
項目	運動部	サークル	合計
2時間未満	6.8	11.9	9.3
2時間以上3時間未満	30.1	21.4	25.9
3時間以上4時間未満	37.6	27.8	32.8
4時間以上	18.0	15.9	17.0
活動がない	7.5	23.0	15.1

p<0.01

女子 (%)			
項目	運動部	サークル	合計
2時間未満	6.6	10.8	9.3
2時間以上3時間未満	23.0	18.0	19.8
3時間以上4時間未満	37.7	31.5	33.7
4時間以上	19.7	13.5	15.7
活動がない	13.1	26.1	21.5

n. s.

(3) 加入のきっかけ，重視した事柄

表18は運動部や運動系サークルへの加入のきっかけを示している。男子，女子ともに，運動部加入者では自分がやりたくて加入した者が多く，運動系サークルへの加入者では友達にさそわれたので加入したという者が多い。運動部加入者が自らの強い意志で加入しているのに対して，運動系サークル加入者では友人との人間関係も加入に影響を与えていることがわかる。

表18 加入のきっかけ

男子 (%)			
項目	運動部	サークル	合計
自分がやりたくて	80.5	68.5	74.6
友達にさそわれた	6.8	22.8	14.6
先生・先輩・親などにすすめられた	10.5	7.1	8.8
その他	2.3	1.6	1.9

p<0.01

女子 (%)			
項目	運動部	サークル	合計
自分がやりたくて	75.4	56.8	63.4
友達にさそわれた	9.8	34.2	25.6
先生・先輩・親などにすすめられた	13.1	9.0	10.5
その他	1.6	0.0	0.6

p<0.01

表19は運動部や運動系サークルに加入する際に重視した事柄についてまとめたものである。

全体としては男子，女子のいずれにおいても，新しい仲間と活動したいから加入したという者が多い。大学に入学し，新たな人間関係をつくり活動したいという欲求が加入を促進しているものと思われる。これに次いで，健康・体力を維持したいから加入したという者が多い。受験勉強等による健康・体力の低下を意識したり，生活する上での健康や体力の必要性を意識した事柄といえよう。

運動部加入者と運動系サークル加入者を比較すると，運動部加入者では運動系サークル加入者に比べて，更に技術を向上させたいから加入したという者が多くなっている。これに対して運動系サークル加入者では運動部加入者に比べて自由に活動したいから加入したという者が多い。これらの状況は男子，女子に共通した傾向となっている。運動部加入者は技術の向上を重視し，運動系サークル加入者は束縛されずに活動したいという欲求が強いものと思われる。

表19 加入する際に重視した事柄

男子 M. A. (%)			
項目	運動部	サークル	合計
新しい仲間と活動したいから	51.9	54.3	53.1
健康・体力を維持したいから	42.9	36.2	39.6
自由に活動したいから	17.3	50.4	33.5
更に技術を向上させたいから	34.6	11.0	23.1
運動仲間との飲み会や団楽を 味わってみたいから	12.8	15.0	13.8
指導者に縛られず活動したいから	3.8	3.9	3.8
高校の時ほど勉強のことを 考えなくなったから	3.8	2.4	3.1
大学により指導者がいたから	3.8	0.8	2.3
その他	6.0	2.4	4.2

女子 M. A. (%)			
項目	運動部	サークル	合計
新しい仲間と活動したいから	60.7	70.3	66.9
健康・体力を維持したいから	31.1	37.8	35.5
自由に活動したいから	19.7	44.1	35.5
更に技術を向上させたいから	27.9	5.4	13.4
運動仲間との飲み会や団楽を 味わってみたいから	11.5	12.6	12.2
高校の時ほど勉強のことを 考えなくなったから	11.5	2.7	5.8
大学により指導者がいたから	6.6	0.0	2.3
指導者に縛られず活動したいから	0.0	1.8	1.2
その他	6.6	2.7	4.1

(4) 学生生活

学生生活は様々な活動により構成されている。そして、個人により各活動に対する価値づけ、優先順位は異なっているものと思われる。

表20は日常生活において最も優先する活動について示している。全体としては、学校の授業、次に自分の時間、さらに同性の友人との付き合いを優先するという者が多い。

男子では、運動部加入者において運動部の活動を最も優先するという者が39.1%を占め、運動系サークル加入者のサークル活動を最も優先するという者の値である11.7%を大きく上回っている。このように運動部への加入者では運動部の活動を生活の中心として考えている者が多いことがうかがえる。

女子においても男子と同様に、運動部加入者では運動部の活動を優先する者が33.9%、運動系サークル加入者ではサークル活動を優先するという者が8.1%となっており、運動部加入者では運動部の活動が生活の中で重要な位置を占めていることがわかる。

非加入者では運動部加入者、運動系サークル加入者に比べて、自分の時間を優先する者が多いという結果となっている。

表20 最も優先する活動

項目	運動部	サークル	非加入	合計
学校の授業	27.1	46.1	41.5	38.4
自分の時間	13.5	18.0	34.1	23.1
同性の友人との付き合い	13.5	14.8	10.8	12.8
部活動	39.1	0.0	0.6	12.1
サークル活動	2.3	11.7	9.1	7.8
アルバイト	2.3	5.5	2.3	3.2
異性の友人との付き合い	2.3	3.9	1.7	2.5

p<0.001

女子

項目	運動部	サークル	非加入	合計
学校の授業	37.1	44.1	43.6	42.7
自分の時間	8.1	12.6	27.1	20.1
同性の友人との付き合い	17.7	28.8	15.6	19.6
サークル活動	0.0	8.1	7.1	6.3
部活動	33.9	0.0	0.4	5.0
アルバイト	3.2	5.4	3.1	3.8
異性の友人との付き合い	0.0	0.9	1.8	1.3
先輩との付き合い	0.0	0.0	1.3	0.8

p<0.001

表21は現在の大学生活への満足度を示している。男子では、満足しているという者は運動部加入者において運動系サークル加入者、非加入者に比べて多く、どちらかといえば不満である、または不満であるという者は運動系サークル加入者、非加入者において多くなっている。このことから運動部加入者では運動系サー

クル加入者や非加入者に比べて大学生活に満足している者が多いといえよう。

女子では、満足しているという者は運動部加入者において運動系サークル加入者や非加入者に比べて多くなっており、男子と同様の傾向を示している。どちらかといえば不満である、または不満であるという者は非加入者に比べて運動部加入者や運動系サークル加入者において少なくなっている。女子では運動部や運動系サークルに加入して活動することが大学生活の満足度を高めることにつながっていることが示唆された。

表21 大学生活への満足度

項目	運動部	サークル	非加入	合計
満足している	30.8	21.1	21.9	24.4
どちらかといえば満足している	46.6	54.7	52.2	51.3
どちらかといえば不満である	12.8	15.6	18.0	15.7
不満である	3.0	3.9	7.3	5.0
無回答	6.8	4.7	0.6	3.6

p<0.05

女子

項目	運動部	サークル	非加入	合計
満足している	35.5	29.2	26.7	28.8
どちらかといえば満足している	51.6	54.9	56.0	55.0
どちらかといえば不満である	9.7	6.2	13.8	11.0
不満である	1.6	1.8	3.1	2.5
無回答	1.6	8.0	0.4	2.8

p<0.01

IV 結 語

本研究では、大学生のスポーツ実施状況を明らかにするとともに、大学でのスポーツ実施と高等学校でのスポーツ経験との関係について分析した。その結果をまとめると以下のようになる。

大学でのスポーツ実施について、運動部に加入している者は23%、運動系サークルに加入している者は29%、そのいずれにも加入していない者は48%となっており、組織に加入してスポーツを実施している者はほぼ半数となっている。

大学での運動部加入者や運動系サークル加入者では高校時に運動部等のスポーツクラブに加入していた者が多く、高校生活においてもスポーツに力を入れていた者が多い。

高校時のスポーツ実施に対する好悪の感情については、運動部加入者や運動系サークル加入者の方が非加入者に比べてスポーツ実施に対して好感情を抱いている。

また、スポーツに対する意識では、運動系サークル加入者や非加入者は運動部加入者に比べて、楽しくやれることが一番だとする者が多く、楽しさを志向して

いる。運動部加入者では、やるからには勝つことが大事だとする者が多く、勝利を志向する傾向がみられた。

高校時の技術レベルについては、運動部加入者の方が運動系サークル加入者や非加入者に比べて、同学年の部員の中で技術レベルが高かったとしている。

上述の楽しさを志向するか勝利を志向するかというスポーツに対する意識の相違や技術レベルの相違が大学での運動部、運動系サークル、非加入の選択に影響を与えているものと思われる。

さらに高校時のスポーツクラブの活動のメリットやデメリットとして、運動系サークル加入者では友達ができたとをよかったこととして挙げる者が多く、仲間との活動や交流に満足感を得た者が多い。これに対して非加入者では、よくなかったこととしてストレスがたまることを挙げる者が多く、運動部等のスポーツクラブの活動が精神的な負担となっていたことを示唆していた。このような状況も大学での運動部、運動系サークルへの加入、非加入に関係しているように思われる。

また、高校時のスポーツクラブ参加の目標として、運動部加入者は大会や試合で勝つことを挙げる者が多く、運動系サークル加入者ではスポーツを楽しむことを挙げる者が多い。ここにも運動部加入者の勝利志向、運動系サークル加入者の楽しさ志向が表れていた。

高校時のスポーツクラブへの満足度については、非加入者に比べて運動部加入者や運動系サークル加入者の方が満足度が高い傾向がうかがわれたが満足度と加入状況との間に明確な関連は認められなかった。

大学における運動部および運動系サークルの活動については、運動部の方が運動系サークルに比べて一週間あたりの活動日数が多く、活動時間も長い。また、運動系サークルでは活動が平日、あるいは休日に限定されているところが多いのに対して、運動部では平日、休日を問わず活動しているところが多い。

加入の契機については、運動系サークルへの加入者では友達に誘われて加入した者が多く、自由に活動したいということを重視して運動系サークルに加入した者が多い。これに対して運動部加入者では更に技術を向上させたいということを重視して運動部に加入した者が多い。

日常生活において最も優先する活動として、運動部への加入者は運動部の活動を挙げる者が多いのに対し

て、運動系サークルへの加入者ではサークルの活動を最も優先する活動として挙げる者は少ない。運動部への加入者では運動部の活動が学生生活において極めて重要な位置を占めていることがわかる。

大学生活への満足度について、運動部への加入者では運動系サークル加入者や非加入者に比べて大学生活に満足している者が多い。これに対して大学生活に不満傾向を示す者は運動部加入者、運動系サークル加入者に比べて非加入者に多い。このように運動部や運動系サークルに加入して活動することは学生生活の満足度を高めることにつながるといえよう。特に運動部においてその傾向が顕著となることが示唆された。

文献

- 藤原誠, 堺賢治 (2003) 中学生のスポーツクラブへの加入に関する研究. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第4号, pp. 29-38.
- 藤原誠, 堺賢治 (2004) 子どものスポーツクラブ活動に関する研究—試合への出場状況と活動意識—. 愛媛大学教育学部紀要 第51巻 第1号, pp. 121-128.
- 藤原誠, 堺賢治 (2009) 中学校の運動部活動に関する研究. 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第6号, pp. 25-34.
- 文部科学省 (2006) スポーツ振興基本計画 (改定).
- 文部省 (2000) スポーツ振興基本計画.
- 鶴山博之, 大門信吾 (2005) 大学生の運動経験と運動意欲に関する研究. 富山国際大学国際教養学部紀要 第1巻, pp. 81-91.
- 上向貫志 (2000) 大学生のスポーツ・運動活動に対する意識と運動参加に関する実態調査. 武蔵大学人文学会雑誌 第31巻 第3号, pp. 430-433.
- 安田貢, 遠藤俊郎, 下川浩一, 布施洋, 袴田敦士, 伊藤潤二 (2009) 大学生の運動部活動に関する回顧調査—中学時代のストレス, サポート, 自己効力感に注目して—. 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要: 教育実践学研究 第14号, pp. 95-105.
- 横田匡俊 (2002) 運動部活動の継続及び中途退部にみる参加動機とバーンアウトスケールの変動. 体育学研究 第47巻 第5号, pp. 427-437.